

# 東北の工時報

行發日廿月十日一回三月每  
吉梅越堀人行發集編印  
社報時工商北東所行發  
圓一金行一料告廣  
錢卅月ヶ一錢十金部一  
圓三共稅郵年ヶ一

局支社本  
福島市外八島三河尻  
石城郡小名濱町  
相馬郡原町  
双葉郡富岡町  
東白河郡棚倉町  
東京市足立區本木

## 縣議選顧みて

選舉改正と選舉肅正といふ監視の下に縣議選は終幕を告げたがその結果三對三の均等勢力となつた、野崎滿藏氏最下位の當選は豫想意外であつたことは周知の的となつた氏は最高か二三あたりで當選するものと想像してゐた者が多かつたであらう、亦小野晋平氏は公認でありながら政友部會より應援が無く全く孤立状態に陥り危きも四番にて當選した事は氏の人格を物語るばかりでなく、警察當局の嚴正な取締りのためであらうと思ふ、新顔關内君は平を中心として生地の大浦村から四倉方面の郡北部にかけ舊政友の強固なる地盤を擁して樂勝することは當然であつたが興味ある問題は炭礦地帯であつた、それは新人の蓮沼君の生命線である内郷より千五百五十五票を得て當選に入つた事であるがその裏面に於ては『比佐對鈴木』となる譯で果して吾人の前に如何なる事を提供した事であらう。

## 大小名濱建設の爲め

### 小野晋平氏

再び名譽町長に推薦確實



【氏平野小】

て最高點に當選した事は氏は感激無量であらう、新人小松章君は一時は危いと思はれたがさすがは比佐氏の地盤だけにあつて選に入つた事は無理でなかつた、而し何れも我々の代表者として期待されると思ふ。だが何んと言つても往年の様に政民火華を散らす果敢な選舉風景が見られなくなつたことはモノ淋しいと同時にその結果の勝敗に對する興味も薄らいたやうな感があると言つたつて今更政黨の腐敗したと云ふことではないが肅正の取締の苛酷から實際選舉の到來に陥つたりして却つて肅正の名に副はぬ結果になつたのではないかと思はれた。それは棄權率が一割六分といふ成績が表はれ前回よりは五分六厘増であつた。取締の前提として政治教育を全からしむることが急務ではあるまいか、選舉民に對して今少し政治教育の徹底こそ肅正ともなり淨化される事と思ふ、一日労働して生活に追はれてゐる者が果して政界のことが理解して居るであらうか。

書事業の實現は容易であるが、かゝる状態により小名濱町當局に於ても一日も新與途上にあるは氏の大なり早く町長を選任せねばなるまい、だが併し町長として同方面に於ける各種事業は、亦地方の相談役としての地方消長を左右する手腕家たるべき人物は小野氏こそ自治及び實業界に活躍したる一大巨柱たる人格高貴學識深遠、昭和十二年度に於てその完成を見んとする商港大小名濱町を背負つて立つ、無くならない人物であらう、氏は再び名譽町長に推薦される事は既定の事實である小名濱港は第一の漁港商港として平小鐵道の開通後に來るべき諸般の施設に對し

## 萩原礦業部

### 益々好調へ

#### 舊平炭礦復活

小田炭礦株式會社は石城郡對する烈々なる意氣は之れ好間村大字北好間字龍に在るを見て窺はれるであらう、礦區坪數第一坑十七萬坪は少壯の社長として一面坪、第二坑九十七萬坪實に慈善と徳望の士で流る、如百十一萬坪にして一ヶ年の才腕は常に業界の先驅者出炭量十四萬噸に及ぶといとして讚へられ前記平炭礦ふ充實振りを見せ、亦最近を小田炭礦と合して過ぐる元三井礦山が經營して居た昭和九年十月以來此處に名舊平炭礦同村及び箕輪村地實共に大小田炭礦株式會社内礦區坪數七十四萬坪、埋藏原礦業所を實現せしめた藏量二百萬噸と稱せられ非のである。同炭礦をして微常に有望視され同炭礦を買収復活採炭すべく去る二月の今日株主間の信頼される中旬より工事を着手、坑道に至つた。

## 折紙付の優良炭

### 近々着炭

#### 信念強き杉山氏

杉山炭礦業所は石城郡内内容最近杉山炭は優良炭で郷村大字白水に在り、信仰あると認識されに及び中央概念の厚き杉山今朝吉氏の線關東方面は勿論、而毛線個人經營に係るもので礦區方面に迄に販路が擴張され坪數十三萬坪、埋藏量七十に至る状態である。亦警城炭礦より買収された方噸、年出炭量四萬噸從業員二百三十名その礦業所の數萬坪の優良礦區が近く探施を眺視せば百三十馬力排炭の運びに到り新礦探炭祝の機一臺、百馬力排水ポンが開催されるとの由、小名濱建設に努力せねばならぬ、先般豪雨により被害が甚大であつたため益々多難である、現下財政困難極めて居る折柄、各種の計

て營々枚々活動を怠らず自ら一般から尊敬されてゐる從業員初め村民の徳望を一新治行政並びに小名濱を今日新與途上にあるは氏の大なり早く町長を選任せねばなるまい、だが併し町長として同方面に於ける各種事業は、亦地方の相談役としての地方消長を左右する手腕家たるべき人物は小野氏こそ自治及び實業界に活躍したる一大巨柱たる人格高貴學識深遠、昭和十二年度に於てその完成を見んとする商港大小名濱町を背負つて立つ、無くならない人物であらう、氏は再び名譽町長に推薦される事は既定の事實である小名濱港は第一の漁港商港として平小鐵道の開通後に來るべき諸般の施設に對し

和銅 洋鐵 金問 物屋  
**店商屋釜**  
番九・番九九話電・町平

### 昭和維新の内面的潮流

凡て國家法は其の性質上、新種な社會を生成し、該畫一的なものであつて、舊社會の既存法制との間にすれば抽象的概念の中に固執すること能はざるギヤツプ定して仕舞ふ嫌があり之を生ぜしむるに到つた。對し社會はそれ自体の力を而して大工業勃興の結果小執固有の創造を積みつ、資本の經營者は漸次大資本獨立不勵の進化を遂げて行の經營者に依つて代信せられ中世の親方連中までが賃此に國家法と社會との矛盾が生じて來る、這の種の現象を來したのである。現象は既にローマや中世の斯くして積極的に新職業の獨逸の社會に於て明瞭に見、労働階級が社會に生み出させつけられてゐる、我が日れる農業、労働者、海員、本に於ても最近種々なる型働者、鑛業労働者、婢僕、體によつて見る事が出来る、商業使用人、技術員、教員凡そ法律生活を營んでゐる、等何れも從屬的職業階級者社會には必然的に見る事として合流し俱に社會に主得る現象である。所謂産業要部分を構成し利害を同じ革命による社會的變動は其くする上に於て固結し廣いの尤たる現象にして大工業意味に於て労働階級なるもの勃興と資本主義の跳梁とのを形成し或る種の認識を舊時代の社會組織と經濟正にクライマックスに到達組織とを根本より覆して全してゐる状態である。勿論

この場合賃金労働者としての彼等の地位は以前の手工過渡的な状態に止まらず繼續的な職業状態を成せるものである事も或る種の認識に拍車をかけてゐるものである。かの様な状態にあるならば今にして國家が此の種の匡救策を徹底的に講ぜざればこれこそ全く非常時日本の内面的爆彈である。かの五・一五事件、神兵隊事件の如き昭和維新を希圖せんとする人々の悩みもそのアング・カール・レントは全く此所に基因せる事實が見られる。然るに此の方面の研究が於てもその名稱する統一を缺き規範の徹底を見ずこの際その筋の再考によつて最救策の案を出されんことを望むものである。

(文責富岡支局記者)

### 町の美觀と治安のため 石油倉庫を 取除くか、移轉を願ふ

現在世の中で危険視として目撃する商店平支店にて營業居るのは石油の營業であらう者に關係なき來訪者の粗忽何處でどんな事が起るか(煙草の吹殻)により火災が間として解るものではない起きた、一時は危険状態に油の營業は最近自動車業の陥り平町全部に及ぼさんと發展と共に増加して來る。憂慮したが通り合せた人々設備も完備して居ると何等や消防により消火に努力し危険ではないと思はれるが結果石油倉庫に火が付か平町の中央而も一丁目の大商店先のみで止めた事は不通りに倉庫を建てた事は考幸中の幸であつたその後附慮せねばならない。近の人達は安閑として居る安心の出來る様取除く事を何故なれば、先般平町一丁事が出來ないと何時も不安望む者である。(一町民)



### 秋の療養志保野温泉へ!!!

縣下温泉郷の中に稀れ見る療養地として四季それぞれ避暑に。遊寒に。紅葉に。新緑に……

◎交通 水郡線(東館より三里)各驛にて  
瑯驛より二里)自動車の便あり

◎効能 婦人病に特効  
縣衛生課の分析に依り  
格魯見僅少石炭

東白川郡笹原村  
御旅館 志保野温泉  
經營者 鈴木ミヨ

### 募集

炭礦坑夫百名  
〔シロウトデモヨシ〕  
石城郡好間村  
萩原礦業部

料亭  
末廣  
平田町  
電話四二二番

漁業、鯉船製造販賣  
廻船問屋  
鯉船問屋  
八島屋商店  
立花雄七  
福島縣小名濱港  
電話一〇二番

内外建築材、建具材  
阿部材木店  
店主 阿部好利  
平町公園下電話四九四番

小名濱町  
御料理  
仕出し  
カフエ  
喜樂  
田中福松  
電話四七番

銘酒は……  
清世界

秋爽な気分を  
美術寫真に  
尾城寫真館  
小名濱町一〇四番

●名湯花園鑛泉  
神經痛胃腸に靈効  
東白川郡棚倉町  
御旅館 權現湯  
みはらし  
館主 横倉泰治

大平材木店  
店主 大平  
小名濱町電話一〇八番

内科小兒科  
産婦人科  
花柳病科  
久保田醫院  
小名濱町電話二二番

小名濱町上横町 電話一四八番  
會田醫院  
院長 會田亮

一般内科  
外科  
花柳病科  
草野醫院  
小名濱町電話一七三番

口腔外科  
齒科一般  
木田齒科醫院  
小名濱町電話一〇五番

銘茶、砂糖、乾物  
和洋紙、化粧品  
石鹼、陶器、足袋  
其他 日用品各種  
小名濱町中島(八島屋向ひ)  
文助 丸一屋商店

田畑屋號  
大平材木店  
店主 大平  
小名濱町電話一〇八番

元賣發  
店本屋水清  
町濱名小  
番六話電